

# 電子図書館を活用した多読教育の実践 -青山学院大学社会情報学部をケーススタディに-

上野 亮† 飯島 泰裕‡

青山学院大学 社会情報学部†‡

## 1. はじめに

近年、大学図書館において、電子図書館を導入する事例が見られる。ここで言う電子図書館とは、PC やスマートフォンを通じて、デジタルデータで作成・出版される電子書籍の検索・貸出・返却・閲覧を可能にするサービスである(株式会社図書館流通センター, 2018)。青山学院大学社会情報学部においても、2013年度から2015年度までの3年間に渡り、電子図書館を活用した多読教育を実践してきた。しかし、当時の電子図書館は、文学作品を中心に扱っており、学部教育に適した電子書籍が存在しなかった(飯島他, 2016)。

そこで、2016年度末に、社会科学系や自然科学系を始め、様々なジャンルの電子書籍を扱える新たな電子図書館「LibrariE」を導入し、プレゼン教育等に活用してきた(青山学院大学社会情報学部, 2017)(上野他, 2018)。本稿では、より学部教育に適した電子書籍が扱える電子図書館を活用し、実施した、多読教育の成果と課題について報告する。

## 2. 社会情報学部における多読教育

大学教育における読書教育には、一冊の名著を対象に、背景などを考え深く読む「精読」やその分野の概要等を知るため、多くの本を短時間に読む「多読」などがある。特に、多くの本を読み、必要な情報を採る多読は、日々のレポート作成、しいては卒業研究論文の執筆等、大学教育を受けていく上で、必要な読書の仕方となる。そこで今回は、早くから多読という読み方に慣れさせるという観点から、入学間もない学部1年生を対象に、多読教育を実践した。

多読教育は、学部1年生の必修科目である「社会情報体験演習」という2コマ連続で行わ

れる授業で実施した。1コマ目は、多読の必要性や電子図書館の使い方を説明した。2コマ目の約90分間で、実際に電子図書館を活用し、電子書籍で多読する、多読課題を課した。多読課題の具体的な内容は、表1の通りである。本研究では、多読課題実施時の利用統計データ及び、学生を対象としたアンケート調査の結果から、多読教育の成果と課題を明らかにする、

表1 多読課題の内容

対象	・社会情報学部1年生必修科目 「社会情報体験演習」履修者189名
課題期間	・2018/04/18 (当日授業中(約90分))
課題図書	・講談社ブルーバックス, 講談社現代新書等, 電子図書館に用意した書籍282冊 ・TOEIC対策のような問題集系書籍は課題図書から除外
課題内容	・授業時間内に書籍を読み, 1冊毎に, 書籍に出てくるキーワードや3行程度の感想文を書く ・授業時間内に可能な範囲で, 最大4冊までの書籍を読む
備考	・電子図書館の最大貸出可能数は1冊

## 3. 多読課題時の電子図書館活用方法

電子図書館のシステムからは、電子書籍の貸出日時、借りた利用者のID等、利用状況に関する利用統計データが取得できる。そこで、多読教育時の、電子図書館活用方法を明らかにするため、利用統計データを分析した。

電子図書館の活用状況を時系列で見ると、本格的に多読課題に取り組み始めた「16時50分台」に貸出が集中し、以降は、本を読み終わった学生が順次、次の本を借りていく様子が分かる。また、他の時間帯に比べ、「17時30分台」～「17時50分台」に、貸出が集中していた(図1参照)。よって、多くの学生達は40分～1時間程度の時間を掛けて、1冊の書籍を読んでいると推測される。

A Practice of Extensive Reading Education Using an E-libraries  
-A Case Study of Aoyama Gakuin University School of Social Informatics-

†Ryo Ueno, ‡Yasuhiro Iijima, †‡Aoyama Gakuin University School of Social Informatics

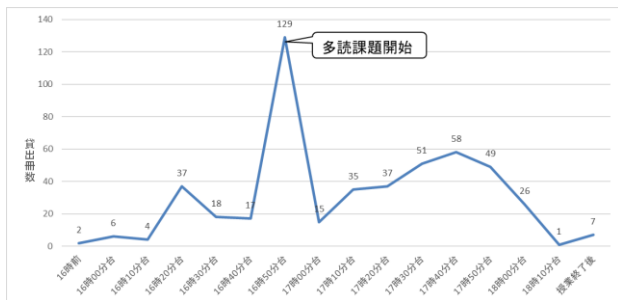


図1 時系列別貸出状況

貸出回数別人数を見ると、「2冊」が78人(41.3%)で最も多く、次いで「3冊」が59人(31.2%)、「1冊」が20人(10.6%)の順となった。7割近くの学生の貸出冊数は、2~3冊程度に留まっている。そのため、実際に時間内に学生が読み切れる書籍数は、1~2冊程度であり、多数の書籍を読み、情報を整理することに、苦勞している様子が伺える。

利用統計データを見ると、電子図書館や電子書籍に慣れさせるという観点では、問題無いと考えられる。一方、多読に慣れさせるという観点を踏まえると、課題時間の延長等の対策が必要になる。

#### 4. 学生の電子図書館に対する意識

多読教育を受けた学生に対し、電子図書館を利用した感想や要望を把握するため、アンケート調査を実施した。結果、189名から回答を得た(回収率 100.0%)。まず、電子図書館の魅力については「本の置き場所に困らない」が86人(45.5%)で最も多く、次いで「図書館に行く手間が掛からない」が67人(35.4%)、「本を探す手間が掛からない」が57人(30.2%)の順となった(図2参照)。インターネットを通じ、ICTツールから利用可能な電子図書館の特徴は、そのまま魅力に繋がっていた。



図2 電子図書館の魅力

一方、不便な点では、「紙の本を読むよりも目が疲れやすい」が93人(49.2%)で最も多く、次いで「バッテリー残量の心配がある」が73人(38.6%)、「開きたいページ(読み返したい箇所)がすぐ開けない」が58人(30.7%)の順とな

った(図3参照)。魅力とは逆に、ICTツールを通じて利用するという電子図書館の特徴が、そのまま不便な点に繋がっていた。



図3 電子図書館の不便な点

#### 5. おわりに

本研究では、電子図書館を活用し、多読教育を実践した。その結果、学生は40分~1時間程度の時間で1冊の書籍を読むため、課題時間では、1~2冊程度の書籍を読み切れること。学生にとって、ICTツールを通じて利用する、電子図書館の特徴が魅力であると同時に、不便な点でもあること等が確認できた。

今後は、今回の実践で得た成果を踏まえ、継続的に、電子図書館を活用した多読教育を実施する。これにより、より学習成果の高い、電子図書館を活用した、多読教育の方法を明らかにしたい。

#### 謝辞

本研究で活用した電子図書館の導入に当たり、株式会社紀伊國屋書店、株式会社日本電子図書館サービスの皆様にご協力頂きました。ここに感謝の意を表します。なお、本研究は科学研究費基盤研究(C)「深い学習を促すデジタル教材—学習方略の選択への介入—」の成果の一部です。

#### 参考文献

- 1) 青山学院大学社会情報学部: 青山学院大学社会情報学部電子図書館, 青山学院大学社会情報学部電子図書館(オンライン), 入手先<<https://www.d-library.jp/agu/g0101/top/>>(参照 2018-12-21)。
- 2) 飯島泰裕, 吹春俊隆, 寺尾敦, 上野亮: 電子図書館を活用した多読教育の研究, 青山社会情報研究, 第8巻, pp.67-74 (2016)。
- 3) 上野亮, 飯島泰裕: 電子図書館を活用したプレゼン教育に関する研究, 情報処理学会第80回全国大会講演論文集, Vol.4, pp.479-480 (2018)。
- 4) 株式会社図書館流通センター: 電子図書館サービス人と資料をつなぐために, 株式会社図書館流通センター(オンライン), 入手先<<http://www.trc.co.jp/solution/trcdl.html>>(参照 2018-12-21)。